

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第577号 平成25年7月16日

店じまいのお値段？

日本経済新聞が、「亡くなるといくらかかるか？」という面白い記事を書いています（6月12日付）。

私にもつい先日、来て欲しくない誕生日が来てしまいました、とうとう67歳となりました。70歳に直ぐに手が届くところに来ました。70歳という年齢は、私にとっては想像の外だったのですが、今や、後期高齢者と呼ばれるのも目前です。そんな訳で、お葬式の記事等があると、ついそこに目が行ってしまいます。

厚生労働省の調査によると、2012年の人口動態統計で、死亡数が統計を取り始めて最多を記録したそうです。日本は人生80年時代といわれる超高齢化社会のただ中にありますので、元気なお年寄りが増えていますが、しかし、いつまでも元気でいられるわけではありません。従って、これからは益々沢山の方々が亡くなって行く事になると思います。

人が亡くなると、最初に直面する問題は、葬式をどうするかという事です。

私の両親が亡くなった時、一体どの様な葬式にすべきか悩みました。といいますのも、私の両親は二人とも市井の中で慎ましく生活して来ましたから、当初、葬式は親類縁者だけでと考えていました。しかし結局、葬儀委員長は立てなかったものの、私の関係者にも連絡がたって、かなり大きな葬式になってしまいました。今でも、あれで良かったのかどうかという思いが残っています。

また、人が亡くなると、葬式だけでなくお墓や遺品の整理をどうするかといった問題も出て来ます。そこで、日本経済新聞が、葬儀・お墓・遺品整理について世情を調査しています。以下、この記事を基に、亡くなると幾ら掛かるのか見て行きましょう。

まず、葬式についてです。

最近家族葬でお葬式をされた方から、「家族葬というのはお金が掛からないかと思っていたが、意外にお金がかかった」という話を聞きました。確かに、最近は家族葬で葬儀をする方が増えていますが、家族葬といえども、祭壇の費用等葬儀一式、飲食などの経費、お寺に包むお金等、どのような方式であれお葬式を一つ出すにはそれ相応の経費が掛かります。

日本消費者協会の2010年の調査では、葬儀費用の全国平均は約200万円と

葬儀の費用の地域別比較(単位:万円)

| 地域別 | 最低額 | 最高額 | 平均額 |
|-----|-----|-----|-------|
| 北海道 | 50 | 250 | 147.2 |
| 東北 | 32 | 810 | 233.6 |
| 関東A | 100 | 400 | 228.2 |
| 関東B | 35 | 500 | 222.0 |
| 中部A | 40 | 350 | 221.0 |
| 中部B | 120 | 412 | 213.4 |
| 近畿 | 50 | 500 | 194.1 |
| 中国 | 100 | 300 | 192.3 |
| 四国 | 20 | 210 | 105.0 |
| 九州 | 30 | 300 | 146.3 |
| 全国 | — | — | 199.9 |

注:この表は、日本消費者協会の調査(2010)を基に日本経済新聞社がまとめたものです。

関東Aは茨城、栃木、群馬、千葉、関東Bは埼玉、東京、神奈川、中部Aは新潟、富山、石川、福井、中部Bは山梨、長野、静岡、愛知

なっており、規模や会葬者の数等によって最低額と最高額の差が非常に大きい事が分かります。

結局、葬儀は誰が何の為にするのかという考え方で、規模も費用も大きく変わって来るのだと思います。

例えば、政治家の方が喪主となっている葬儀を見ると、規模も大きく盛大ですが、それは亡くなった方を悼むというより政治家が自分の力を誇示するための場に変質してしまっている、と感じる場面がない訳ではありません。

一方、最近はやりの家族葬は、亡くなったご本人の意向を尊重してというように、亡くなっ

た方の人柄等を忖度して行われる場合が多いと思われませんが、同時に、葬式の費用を押さえたい、大勢の方に来られるのは面倒といった様な、葬儀を執り行う側の都合で選択される場合もあるようです。

この他、最近では、お通夜なしの1日だけの葬式や葬式そのものを挙げないというケースも出て来ています。

葬式に対する考え方や形式は時代と共に変化して来ていますが、亡くなった方を送るという葬式の意味というものは、昔も今も基本的には変わっていないと思います。

葬式は、人が亡くなったという事を公式の場で示すと共に、亡くなった方の霊を慰めようとするものです。しかし、それ以上に重要な事は、亡くなった方を知る者が集い、その人と共に過ごしてきたかけがえのない日々を思いを致す事ではないでしょうか。

大切な人との別れは悲しいものであり、心に深い傷が残りますが、しかし、その大切な人の死を通して、人の死を考え、自分が今生かされている事の意味を自ら問う、葬式というのはそういう意味でも重要な場だと考えています。

次に、お墓についてです。

お墓の費用としては、墓石建立費、墓地を使用する権利を取得する永代使用料の他、毎年管理費が掛かります。

墓石を建立する為の費用は、100万円程度から上を見ればきりが無いということだと思います。これに墓地の永代使用料を加えると、少なく見積もっても、200万円前後は掛かるといわれます。

この様に、お墓を建てるという事は結構大変な事業となりますので、最近はお墓

を建てず、お寺や民間が運営する納骨堂を利用する人も増えて来ている様です。

私は、1年の内の半分近くを雪で覆われてしまう事を考えると、どうしてもお墓を建てる気になれず、お寺の納骨堂を利用しています。ただ、お寺の納骨堂についても永代使用料がかかりますので、お墓を作る程ではないとしても、それ相応の費用負担は当然の事です。

最後に、遺品整理について考えてみましょう。

亡くなった方との関係が深ければ深い程、思い出の品を形見分けとして身近に残して置きたいというのは、誰しも共通の思いでしょう。

ただ、遺品整理となると事は簡単ではありません。私の場合は、両親が亡くなった際家ごと整理をしたのですが、それでも、アルバム等どうしても処分しきれずに手元に置いてある物が沢山あります。

人間一人が生活すると、様々なものがくっついていて、しかも何十年も生きていればそれは相当のものになる筈です。亡くなった方にとっては大切な思い出の品でも、残された者にとってはゴミの山というのは避けられません。

ゴミだといっても、簡単に何処にでも捨てられませんので、最近では専門の業者に遺品整理を依頼する遺族も増えて来ているそうです。

この遺品整理の費用は、遺品の量により異なりますが、数10万円から数100万円掛かる場合もあるそうです。

ここまで葬儀、お墓、遺品整理についてどの位のお金が掛かるか見て来ました。

死ぬのもそう簡単なことではないという事です。死んでしまえば何も分かりませんから、後は残った者で考えて適当に、というのも無責任の様な気がします。

私としては、残された遺族に負担を掛けない様、身辺を整理しなければと思っているのですが、どういう訳か、整理するより溜まるものが多くて困っています。という訳で、あの世からのお迎えは、もう少し先延ばしさせていただければと思っています。 (塾頭：吉田 洋一)